## ■ ミャンマーから研修生がお越しになりました！

12月5日（水）、国際協力機構及び東京海洋大学からのご紹介でミャンマーからの研修生九名様がセンターに来てくださいました。

インドシナ半島で五つの国と接し、ベンガル湾とアンダマン海に面するミャンマーは、国土こそ日本の約二倍ですが、海岸線はわずか1,900キロしかなく、農業が主産業の国です。研修生の皆さんは、水産分野の行政官や研究者の方で、日本の漁業の現場から知識や技術を習得し、自国における振興策に活かすことを目的にセンターを訪ねてくれました。

当日は、生産流通部より「日本の資源管理手法や漁獲管理のプロセス」などをお話ししたところ、研修生からは『日本では、資源評価の結果からどのようにＴＡＣを決めているのか？ＴＡＣを守るためにどのような方法で行っているのか？』等の質問があり、資源管理に対する熱意を感じました。ミャンマーは、タイなどへの水産物輸出が大変好調ですが、国内漁業や養殖業がさらに大きく発展されることをお祈りいたします。ご来訪ありがとうございました。(2018)